

生 活 科

興 井 綾 子

坂 井 文 代

1 生活科の本質について

私たちは、生活科の本質を次のように考えている。

自立への基礎を養うこと

低学年においては、発達上の特性でまだ未分化なところがあるために、具体的な活動を通して思考することが必要とされる。さらに、幼稚園教育と、小学校教育との間には、教育システム上の大きな違い（段差）があり、子どもは戸惑いスムーズに小学校に適応しにくい現象が起きている。その上、近年、社会の変化が激しい中、これからの社会に適応できる力をつける必要性が出てきた。

これらの背景を受け、生活科の学びを考えた時、生活科が担う役割は、自ら考え自ら行動しようとするものの基礎の育成にあると言える。言い換えれば、一人一人が自立の基礎を身につけることである。生活科では、この「自立への基礎を養うこと」を本質と考えている。「自立への基礎」とは、次の3つを指している。1つ目は、学習活動を自ら進んで行うという学習上の自立。2つ目は、自らよりよい生活を創り出していくことができるという生活上の自立。3つ目は、自分の良さに気づき自分の在り方について考えていく精神的な自立である。

生活科で学ぶことによって、単に生活習慣や技能、学習の仕方などを身につけるだけにとどまらず、学んだことを日常生活に生かしていこうとすること、人を思いやること、自然を大事に思うことを身につけさせたいと考えている。これらが、生活科で考えている「知性と教養」である。

2 生活科の「学び」について

生活科では、友達や先生など「人」に関することや、子どもを取り巻く公共施設や自然の事

物などの「もの」に関する事、遊びや地域行事など「こと」に関する事などを、学びの対象としている。学びの対象に、子どもが興味・関心を持って主体的にかかわり、具体的な活動や体験をすることによって、学ぶことの楽しさや成就感を味わうであろう。そして、その楽しさや成就感が次の活動への新たな意欲を生み、より積極的に環境とかわるようになっていく。その過程の中で、子ども達は自分自身や自分の生活を考えるようになるであろう。この一連の活動を繰り返すことで自信がつき、自立への基礎を養うことができると期待している。この一連の過程を、生活科における学びの過程ととらえている。

その過程を通して「活動を楽しむこと」「自分なりに表現できること」「生活習慣や技能を身につけること」「自分とのかかわりで見られること」「かかわり方がわかること」「意欲や自信を持つこと」など具体的な子どもの姿の中に、生活科における「知性と教養」の高まりが表れると考えている。これらのことを、学びの構造図に表すと、下の図のようになる。

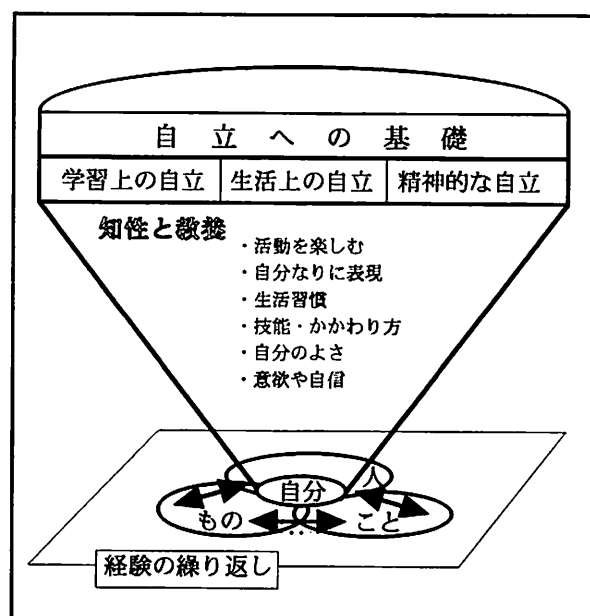


図1 生活科における学びの構造

3 本質と「学び」に基づく基礎・基本について

子どもたちの「なぜかな」「〇〇したいな」などの個々の思いや願いを大切にしたい。その思いや願いを実現する過程の中でこそ、学ぶことの楽しさや成就感が味わえ、次の活動への意欲を生んだり、環境と積極的にかかわったりすることができるようになるであろう。この一連の活動を繰り返すことで、自立への基礎が養えると考えている。

以上、これまで述べてきたことを踏まえ、子どもが、身近な「人」「もの」及び「こと」とかかわりながら、具体的な活動や体験を通し、「知性と教養」を身につけ、その後の生活や学習に生きて働くようになることが大切であると考える、下記のことを基礎・基本ととらえた。

自分なりの思いや願いを 「人」「もの」「こと」とかかわり 自分なりの方法で実現しようとする

4 単元を構想するにあたって

生活科の学びの場において、自立への基礎を養うことを目指すために、以下に述べる視点に基づいて単元を構想していく。

(1) 一人一人の身近な「人・もの・こと」へのはたらきかけを促す

子ども一人一人の発達段階や、何に興味を持っているのかなどについて、日頃から子どもの観察が大切である。また、子どもが「おや」「不思議だな」など驚きやつぶやきが出るような学習材の選択や出合わせ方の工夫、そして学習環境の整備もしていきたい。なお、年間を通して「人」とのかかわりを大切にしながら、協調性や他への思いやりの心を深めていきたい。

(2) 知的な気づきを大切にする場を設ける

子どもが見つけた事物や現象についての、直感的な特徴づけやアイデア比較や関係づけを行って得られた考えを、自らの理論として、それぞれの子が進んで言い表わすところのものを、知的な気づきととらえている。それらは、将来における科学的な思考や認識、合理的な判断、そして美的、道徳的な判断の基礎となるもの

のだと言える。

実際にそのものに触れたり食べたり、においをかいだり聞いたりなど、諸感覚を通した実体験を取り入れていきたい。そして、子どもの発言やしぐさに見ることができる情緒的な表現を大切にし、子どもの感じ取った内容を教師から問い掛けたり、表現された子どもの思いに共感したりしていきたい。教師が子どもの思いや気づきを肯定し、認めることで、子どもは安心感を持ったり、互いに何でも教え合ったり、また何でも見つけてみようという意欲につながり、次の学びにつながっていくと考えている。

(3) 自分や友達の考えを聞いたり広めたりする場を設ける

いろいろなサイズのグループで友達とかかわり合いながら活動したり、思いを伝え合ったりする活動と意思の共有化の場を、意図的に設けていきたい。

また、自己表出の方法を考えたり、その中から自分にあった方法を選択して表現する時間を設定していきたいと考えている。これらのことを積み重ねることで、自信をもって自分なりの表現方法を見い出していけるのではないかと考えている。

(4) 振り返りの場を設ける

活動で楽しかったことや、自分の思いで願いがどのくらいできたかなどを文や絵で振り返ったり、みんなで共通した体験をする場を適宜設けていく。また、そのための時間を十分に確保していきたい。この中で、自分を見つめ、以前とは異なった自分に気づいていくことを願っている。時には、友達や保護者などからの評価を聞いたりする場を設け、成長した自分を認めてもらえる場をつくっていくことも考えている。このことで、自分に自信をもつことができるのではないかと考えている。

5 実践例 ― 2 年 ―

(1) 単元名 まんぶくパラダイス パート1

- (2) 目 標
- ・自分なりの思いや願いをもって野菜やハーブを育てることができる。
 - ・野菜やハーブを育てる活動を通して、その成長の様子に気づいたり、身近な人とかかわる楽しさを味わったりすることができる。

(3) 指導にあたって

本単元における基礎・基本について

本単元では、野菜やハーブを学習材としてとり上げる。野菜は、収穫の楽しさや喜びがあり、収穫後も調理や製作など活動の広がり生まれる学習材である。また、ハーブは、見て楽しむだけでなく、その葉から漂う香りや噛んだときの味わいに特徴があり、様々な感覚を通してふれあうことのできる学習材である。

子どもたちは、これまでにアサガオやチューリップの栽培、草花遊びなど、身近な自然とかかわる楽しさを経験している。これらの経験をもとに自分が育てたい野菜を選んだり、世話の仕方を調べたり、収穫後の利用法について考えたりするであろう。その際には、家の人や詳しい人に相談したり本で調べたりして、自分たちが学習の主体者として進められるようにしていきたい。また、1年生や幼稚園児と一緒にサツマイモを育てたり、野菜の様子を新聞にして知らせたり、4年生にハーブのことを教えてもらったりする活動を行う。子どもたちは、自分より小さな友だちとかかわることで、お世話になることの多かった1年生よりちょっぴり大きくなったうれしさやお世話をする難しさを味わうことであろう。そんな子どもの気持ちに共感しながらかわりの場を重ねることで他学年や幼稚園の子どもとかかわる楽しさを味わってほしいと考えている。

本単元は大単元『まんぶくパラダイス』のパート1である。今後、サツマイモやハーブの収穫を楽しむパート2、秋植えの野菜の収穫を楽しむパート3へと続いていく。本単元での活動が、これからの活動を支える意欲となっていくことを願っている。

単元計画 (総時数16時間)

主 な 活 動 と 内 容	学びを深めるために	主な評価ポイント
<p>1 植えたい野菜を決める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年生に聞いて ・家の人に聞いて ・本で調べて <p>わたしのやさいをそだてよう</p>	<p>①</p> <p>①②③④</p>	<p>自分なりの思いを持って育てたい野菜やハーブを決めることができたか</p>
<p>2 苗を植える</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>サツマイモ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生、年長さんと一緒に植えよう ・お世話をしよう 水やり、草むしり、肥料 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>野菜</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一人一株はミニトマトを植えよう ・畑は好きな野菜を植えるよ ・お世話をしよう 草むしり、風よけの囲い、肥料、水やり、わき芽つみ </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 30%;"> <p>ハーブ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・匂いをかいで、食べてみて ・お気に入りのハーブを育てよう ・4年生にハーブのことを教えてもらおう ・ハーブ図鑑を作りたいな </div> </div>		<p>野菜の成長に気づきそれに合った世話ができたか</p>
<p>3 まんぶく新聞を作って野菜の様子を知らせよう</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年生に、年長さんに、4年生に、2年生に、おうちの人に 	<p>②③④</p>	<p>野菜への思いや野菜の成長の気づきを新聞などで他の人へ伝えようとすることができたか</p>
<p>4 野菜を収穫する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野菜を収穫し 食べる ・夏休み中の世話について話し合う 	<p>①③④</p>	<p>野菜やハーブの栽培活動の中で身近な人とかかわろうとする姿が見られたか</p>
<p style="text-align: center;">次単元へ続く</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 30%;"> <p>まんぶくパラダイスパート2</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ようこそサツマイモワールドへ ・ようこそハーブワールドへ </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: 30%;"> <p>まんぶくパラダイスパート3</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野菜村の冬 ・なべパーティでぽっかぽか </div> </div>		

学びを深めるために

① 一人一人の身近な「人・もの・こと」へのはたらきかけを促す

教室の隣にある畑で野菜を育てたり草花遊びをしたりすることで、自分の身近な自然を見直したり、その成長に期待感をふくらませたりすることができる。また、4年生や1年生、幼稚園児とかかわりあいながら野菜やハーブを育てることは、教えてもらうことで活動が広がる楽しみを味わったり、自分より小さな友だちとかかわる楽しさを味わったりすることになるであろう。しかし、小さな友だちとかかわることに、最初はとまどいを感じる子どももいるであろう。子どもの思いに共感しながら、かかわりの場を重ね、ゆっくりと思いやりの気持ちを育てていきたいと考えている。

② 知的な気づきを大切にする場を設ける

ハーブはその香りが非常に特徴的である。そのため、子ども達は嗅覚や味覚をはたらかせてハーブとかかわることができる。「カレブラントの名前はカレーのにおいがするからだね。」「このハーブは田んぼに植えてあるイネと似ているのに、レモンのにおいがするよ。おもしろいな。」「ステビアの葉っぱは噛むとすごくあまいよ。」というように、それぞれの特徴を、諸感覚をはたらかせたり、比較したりしながらとらえることができるであろう。また、野菜を育てる過程で、「風が強くて野菜がたおれそうだよ。囲いを作って守ってあげたい。」「大きくなって折れそうだから、支柱を立てよう。」といった野菜への思いから生まれる気づきを大切に、世話の仕方を考えるようにしていきたい。

③ 自分や友だちの考えを聞いたり広めたりする場を設ける

本単元では、自分が育てている野菜やハーブを紹介する場を設定する。育てようと思ったわけや育てる中で困ったことなどを互いに話し合うことで、自分の思いを表出したり、友だちの考えに共感したり、一緒に知恵を出し合ったりする姿が見られるのではないだろうか。また、一緒に植えたサツマイモの様子を、幼稚園児や1年生にサツマイモ新聞で知らせることで、秋の収穫への期待感をお互いにふくらませていきたいと考えている。

④ 活動をふり返り、次の活動への意欲を持つ場を設ける

機会を捉えて、野菜やハーブのことを1年生や幼稚園児、クラスの友だちに知らせる新聞を作成したり、成長の記録を取ったりする。そうすることで、野菜やハーブの成長を実感したり、活動を振り返りながら自分の思いを表出したり、「早く〇〇がしたいな。」というように次の活動への意欲を持ったりすることができるであろう。このように、自分の思いを自分なりに表出できることを自己の変容を自覚することととらえている。

(4) 本単元における授業の実践と考察

本単元は、野菜やハーブの栽培活動が並行して行われたため、時系列で子どもの姿を追うことは難しい。そこで本項では、『人とのかかわり』『もの（自然）とのかかわり』『自分への気づき』の観点から子どもの活動を見つめ直し、主な評価ポイントを中心に考察を進めていきたい。

もの（自然）とのかかわり

- ・自分なりの思いを持って育てたい野菜やハーブを決めることができたか…評価項目(A)
- ・野菜の成長に気づきそれにあつた世話ができたと感じたか…評価項目(B)

人とのかかわり

- ・野菜やハーブの栽培活動の中で身近な人とかかわろうとする姿が見られたか…評価項目(C)
- ・野菜への思いや野菜の成長の気づきを新聞などで他の人へ伝えようとする事ができたか…評価項目(D)

① 自然とのかかわり ～野菜・ハーブとのかかわりを通して～

子どもの様子から

1年生の時にアサガオや
チューリップを育てたよ

お兄ちゃんはハーブを
育てたことがあるよ

野菜を育てて
食べたいな

ハーブって聞いたことは
あるけどよく知らないよ



ハーブのスパゲティを
食べたことがあるよ



水やりとかお世話が大変だよ
うまく育てられるか心配だなあ

(A)自分なりの思いを持って育てたい野菜やハーブを決めることができたか

ここではハーブを中心に考察する。ハーブについて子どもに聞いたところ、ハーブを育てている家庭が半数近くあり、子どもにとって親しみのある植物といえる。しかし、自分がそれを利用した体験はほとんど持っていない。そこで、まずハーブと出会い、諸感覚を働かせてハーブとふれあう場を設定した。子どもや教師が教室にハーブを持ち寄り、自由ににおいをかいだり噛んだりしてハーブとのふれあいを楽しんだ。その際に教師からクイズを出し、においをかいだり葉の形を比べたりする活動を取り入れた。「このハーブ、カレーのにおいがするよ。」「この葉っぱは、イチゴの葉っぱと似ているよ。」とハーブのおもしろさを体で感じていた。中でも子どもに人気だったのはステビアである。葉を噛むと甘いという驚きが子どもにとって新鮮だったのであろう。このような活動の場を経て、子どもは自分のお気に入りのハーブを見つけ、育て始めたのである。



う～ん、いいにおい！

教師の支援

・たくさんのハーブと諸感覚を使ってふれあう場の設定 ・ハーブクイズ

子どもの様子と

・ハーブへの興味がわき、諸感覚を通してかかわる様子が見られた。

今後の課題

栽培活動を継続することで新たな気づきを生む可能性が感じられる。

(B)野菜の成長に気づき それにあった世話ができたか

栽培活動が長期にわたると、がんばってお世話しようという意欲は低下しがちである。そこで、苗植えから1ヶ月ほど過ぎた頃より野菜の健康調べを行い、記録するようにした。右は、野菜の健康調べ表である。継続して記録することにより、「ミニトマトの実が5個もついていたよ。後何日で赤くなるのかな。」というように、成長の期待感をもち続けることができた。また、「キュウリのつるはざらざらとすべすべがあるよ。」「ミニトマトの実は七夕（飾り）みたい。」「ニンジン葉っぱはバセリと似ているよ。」というように比較に基づいた気づきをもった子どもも見られた。

やさいのけんこうしらべ

やさいこうしうをべして、あそびながら、けんこうをしらべよう。けんこうのことも、まもろう。

月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30
31					

野菜の健康調べより

オープンスペースの本棚にいつでも野菜のことが調べられるようにと野菜の図鑑を常備しておいた。子どもは、野菜の健康観察をしながら「キュウリが伸びてきたから、朝顔の時のように支柱をたてたほうがいいのかな。」と気づくようになり、図鑑を開いて調べる姿が時折見られた。それをもとに、風よけを作ったり、支柱を立てたり、肥料をあげたりといった世話を考え、実際に行ったのである。ところが、皆が支柱を立てているのを見て、かぼちゃやスイカを育てている子も茎を支柱に結びつけてしまったこともあった。伸びていく茎を見て、子どもなりに考えて行ったことである。本単元では、自分の必要感から本で調べたり、お家の人や前に育てた子どもの3年生に聞いたりして世話の仕方を考えさせたいと思っていた。しかし、先に述べた子どもの様子を見ると、野菜のことをよく知っている方を招いて、世話の仕方やどうしてその世話が必要なのかを教えていただく場があってもよかったのではないかと考える。

教師の支援

・野菜の健康調べ ・図鑑の常備

子どもの様子と今後の課題

・栽培活動への意欲と成長への気づきが見られた。野菜の世話について教えていただく場の設定の必要性を感じた。

② 人とのかかわり ～1年生、年長さん～

1学期当初の子どもの様子から

2年生になったよ
1年生や幼稚園さんと
なかよくなりたいな



友だちが喜んでくれると
うれしいな

チューリップ集会で
1年生とどんな遊びを
したらいいのかなあ...



失敗したら
いやだなあ

幼稚園さんに
恥ずかしくて
声をかけられないよ

あじさいづくりで
1年生につまんないって
言われちゃった

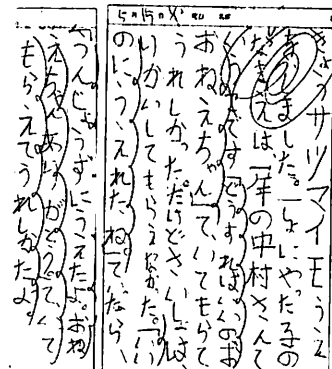


1学期当初の子どもの様子は上記のようであった。2年生に進級した喜びが表情からあふれ、昨年から育てていたチューリップを1年生にプレゼントしたいと張り切っていた。ところが、実際にチューリップ集会の計画を立て始めると、自分たちが楽しむ内容に偏ってしまい、1年生に喜んでもらいたいという思いが弱くなってしまった。実際のチューリップ集会でも、一緒に何かしたい、お世話してあげたいという思いはあるものの、どうかかわっていったらよいのかわからずとまどってしまう様子が見られた。そこで、3学期にわたる単元を構成し1年生や幼稚園の友だちなど身近な人とのかかわりの場を重ねていくことで、かかわり方を学び、かかわる楽しさを味わってほしいと考えた。本単元は、その1学期バージョンである。そのため、かかわるきっかけづくりの単元であると考え、設定した。

(C)野菜の栽培活動の中で身近な人とかかわろうとする姿が見られたか

◇サツマイモの畑開き

5月15日、1年生や幼稚園の年長さんと一緒にサツマイモの苗を植えた。1年生に植え方の説明ができるように事前に苗植えを体験しているの、「葉っぱはお日様の方に向けるんだよ。」「お布団に寝るみたいに植えるんだよ。」と言葉掛けをしながら植える様子が見られた。右は、その際に書いた文である。1年生にうまく説明できずに困ったり、喜んでもらえてうれしかったりした素直な子どもの気持ちがうかがわれる。しかし、一方では目の前に一人でいる年長さんがいても、声を掛けられずにもじもじしている子どもも見られた。かかわりたいという思いはあってもそのきっかけをうまくつかむことができずにとまどいを感じているようである。そのため、今後の活動の中でかかわる体験を重ねていくことが大切である。



畑開きの後の日記より

教師の支援

子どもの様子と
今後の課題

・事前の苗植え体験

自信を持って教える子が見られた一方で、かかわるきっかけがつかめずとまどう子も見られた。今後もかかわりの場を積み重ね、かかわり方を学ぶ必要性がある。

(D)野菜への思いや野菜の成長の気づきを新聞などで他の人へ伝えようとする事ができたか

◇野菜新聞づくり

サツマイモや野菜の様子をいろんな人に知ってもらおうと、新聞づくりを行った。知らせたい相手にあげたのは、全校のみんな、2年生、1年生、幼稚園さん、先生方であった。そこで、知らせたい相手ごとにグループを作り、新聞を作成した。

下記の新聞は、1年生に向けて書いたものである。記事をひらがなで書いたり、「ベランダで…」と気軽に誘う表現が見られたりしている。これは、チューリップ集会や苗植え、あじさい作り(課外の活動)等がかかわる体験を重ねたため、1年生のなかよしさんの顔を思い浮かべながら書くことができたのだと考えている。また、友だちのスイカと自分のスイカの成長を比べて記事にしているものもあった。子どもらしい素直な表現で思いが述べられている。1年生の教室に掲示してもらい喜んで帰ってきた子どもの表情には、伝えることのできた満足感が感じられた。

教師の支援

・野菜新聞を通してのかかわりの場の設定

子どもの様子と今後の課題

・1年生への思いがより具体的に見えるようになってきた。野菜の成長への気づきや栽培活動への意欲も見られる。かかわりの場を重ねることにより、相手意識を高めていきたい。



新聞記事より
1年生のみんなと12月...
おひげがききた...おもしろい...
うってす...まいにち...
1年生と...おひげ...
やおひげ...
おいしそう...かき...
いちばん...おひげ...
2年生...ベランダ...
おいしいよ。

(C) 野菜やハーブの栽培活動の中で身近な人とかかわろうとする姿が見られたか

4年生は、1年生の時にハーブを育てる活動を行っている。そこで、4年生にハーブのことをいろいろ教えてもらいながら、ハーブへの思いをふくらませたり、教えてもらううれしさを味わったりしてほしいと考え、4年生とのかかわりの場を設定した。

◇ハーブへの思いの変容

お気に入りのハーブを選んだとき、その理由は次のようであった。

- ・においがすき…17人 ・実を付けてくれる…6人 ・甘い味がすき…4人
・花やもようがすき…7人 ・作ることができる（クッキー、ジュースなど）…2人

見た目や味などハーブそのものに興味を持った子が多く、ハーブを利用して何かを作ろうと考えている子は、ほとんど見られない。

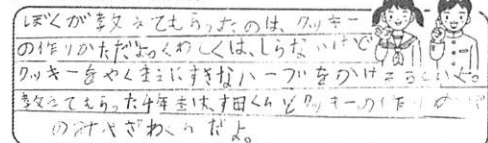
♡ 4年生が教えてくれたよ



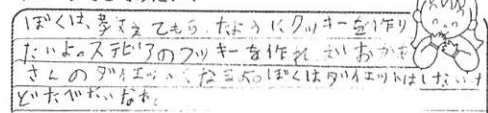
ハーブでどんなことをしたの？

クッキーを
作ったり、T
シャツを染め
たりしたのよ

♡ 4年生が教えてくれたよ



♡ハーブでしてみたい！



4年生が教えてくれたよ

左のカードは4年生にハーブの事を教えてもらった後に書いたものである。ハーブの利用法も紹介してもらったため、クッキーを作りたい、料理をしたい、染め物をしたい、リースを作りたい、ハーブのお風呂に入りたい、香水をつくりたい…というように、ハーブを使って何かしてみたいというような思いに変容している。ハーブを利用して活動する事への期待感が大きくふくらむ、4年生とのかかわりであった。

◇かかわる楽しさを味わう場

4年生のM児とI児は、1年生の時以来クッキー作りを楽しんでいる。2年生とかかわった翌日、二人の手作りのクッキーが子どもたちに届けられた。前日に「クッキーを作ってきてあげるよ。好きなハーブの葉っぱを摘んできてね。」との4年生の言葉に「本当？ヤッター！」とうれしそうだった子どもたち。約束通り届けられたクッキーに、「すごい。食べてもいいの？もったいない。」と大喜びだった。一口一口味わいながら食べている子、「ハーブのいいにおいがするよ」とにおいをたっぷり味わっている子、「お母さんにも食べさせてあげたい」と大事そうに包んでいる子、どの子もクッキーを味わいながら4年生のあたたかな思いやりを感じているようであった。今度は4年生にも作ってあげたいという言葉からもうかがわれる。

右は、4年生が書いた文である。4年生もドキドキしながら2年生とかかわったこと、2年生からも新しいハープのことを教えてもらったことなどが書かれている。このようにかかわりあう場を持つことによって、4年生にとっても教えることができた満足感を味わうことができたようである。

4年生への手紙より

おもしろい、クッキーをあげたところ、男の子がクッキーをぱくぱくすすりやけるのを見て、すごいね、あんなにおいしいクッキー、食べたのは、はじめてなんだ、一回だけなんか、さーっ、さーっいからで、きたら、つくりがたをさーっスてね

そうしたら、わたしも、いつか、クッキーを作ってくれて、しゅーさんに、あげるから、まててね、わたしも、いつかがんばって、しゅーさんみたいに、クッキー名人になて、しゅーさんや、いーこのおちのさんにもあげたいんだ、

今日の3限目に旧一年二組が二の二に、ハーブで何をしたかを教えに行きました。ぼくは、3限目の始まる前にどんな質問されるかな？というふうに答えようかな？とかいろいろ考えていました。いよいよ3限目が始まった！ぼくは十人ぐらい質問された。答えられないのもあったけど、自分なりにけっこうよかったと思う。ぼくは、中村君の弟にハーブの葉をもらい、食べてと言われて食べてみた。うまかった。いい経験になりました。(4年)

教師の支援

- ・4年生からハーブのことを教えてもらう場の設定

子どもの様子と今後の課題

- ・ハーブへの思いをふくらませることや他学年とかかわる楽しさを味わうことができた。今後の活動につなげていくことが大切。

③ 自分への気づき

前述の生活科理論で、子どもが活動をふりかえる過程で自分を見つめ、以前とは異なった自分に気づいていくことを願っている。述べた。本単元は1学期単元であるため、自分の活動をゆっくりとふりかえる場を設けることはなかったが、一連の活動の中で以前とは異なる、自分に気づく子どもの姿が見られた。

右は、畑で育てた野菜を家に持ち帰った翌日、T児のお母さんから届いた手紙である。苦手なミニトマトを食べることができたというもののだが、その際にお母さんが「〇〇くんが作ったトマトは甘くておいしいと思うんだけどなあ。」と言葉を掛けている。この一言に後押しされて苦手なミニトマトを口にするのだが、ここからは、自分で育てた特別のミニトマトと子どもを温かく見守る家族の愛情が、子どもの成長を促していく感じが感じられる。

右の写真は幼稚園に新聞を持っていた時のものである。幼稚園の子どもたちが帰る準備をしている時間だったため、先生に渡すことになり、みんな緊張した様子で教官室に入った。しかし、幼稚園の先生から「上手に書いたわね。絵もとてもうまいわね。」と声をかけてもらい、緊張もほぐれたようであった。このグループには幼稚園の卒園生ではない子もいたのだが、先生から「あなたは〇〇さんね。お兄ちゃん（卒園生ではない）とよく似てるわね。」と話しかけられ驚いていた。卒園生でない自分の名前やお兄ちゃんのことを、これまでほとんどかわることのなかった幼稚園の先生が知っていたからである。「がんばっている様子が幼稚園からもちゃんと見えるのよ。」と言われ、遠くに感じていた幼稚園の先生がぐっと身近に感じられうれしそうであった。

以上のことからわかるように、子どもが自分への気づきを深めていくには人とのかかわりが大切である。そのかかわりは、時には家族であったり教師であったり友だちであったりするであろう。自分をあたたかく見守ってくれる人の存在に気づくことは、これからの活動を意欲的に行うエネルギーとなり、自分の良さを実感することにつながると考えている。

④ 生活科における評価について

生活科での学習は、子どもの生活の中にかえっていく学習である。学んだことが生活の中に生かされてこそ生活科である。それ故、子どもの変容は1時間という限られた時間の中では見えにくいものもある。そこで教師は、他学年や他学年の先生、家庭と連携しながら、子どもの活動を多面的に見守っていくことが大切である。

⑤ 授業を終えて

先にも述べたが、本単元は1年間を通じての単元『まんぶくパラダイス』のパート1である。野菜やハーブの栽培活動や人とのかかわる活動のきっかけ作りの単元である。本単元を通して子どもは、野菜やハーブを栽培して収穫する楽しさを味わい、期待感をもっている。また、人とのかかわる場を重ねてきたことで、相手意識が漠然とした1年生から1年生の〇〇ちゃんといった変容が見られた子もいた。2学期にはハーブを使つての制作活動を予定している。この活動を通して身近な素材をいかしてものを作るおもしろさや、具体的な相手意識を持ちながら身近な人とのかかわる楽しさをたっぷりと味わってほしいと考えている。

お母さんからの手紙より

毎日大変お世話になっております。
「お母さん、たまたま、真人のキヌウリがとれたよ」と
目をキラキラ輝かせながら、本日に大切そうに持ってきて来てくれました。その日の夜、家族4人で、
「真人くんが作ったキヌウリ、お家で食べたキヌウリ
より、とてもおいしかったです。お母さん、今日はキヌウリと
ミニトマトを食べたんだよ。またまた目を輝かせ
笑顔一杯で帰ってきました。ミニトマトは、真人が
大の苦手とするもので、口にするには、今まで、あまり
でし。し。し。このミニトマト、本当においしかったです。
真人が、作ったミニトマトは、きんぱくおちそうな
くらゐ、甘くて、おいしいと思うんだけど、私の言葉を
真人は自分の口の中に、同時に、おいしいと、きんぱく
こぼれました。
自分で育てた、物、収穫できた喜びと、スゴい事に、
畑で育てた、食べる、お母さんに喜び、本当にうれしくて、
一杯、うれしかったです。
今日も、ミニトマトと、一仕事、よく頑張りました。帰ってきたら、
「今日はお母さんが食べて、この前は、真人が
食べたの、今日はお母さんにあげるよ、きんぱく、おいしい」と、
きんぱく、やさしい子なのですが、尊敬致します。
一学期も、お母さんと、一緒に、夏休み、今、
楽しんでいます。一学期、本当に、学校で、
楽しく、過ごしています。お母さん、ありがとうございます。
お母さん、これからも、よろしくお願いします。



野菜新聞です 見て下さい